

①上位の政策名	政策目標 8 文化による心豊かな社会の実現	
②施策名	施策目標 8-4 国際文化交流の推進による芸術文化水準の向上、文化を通じた国際貢献、諸外国との相互理解の増進。	
③主管課及び関係課(課長名)	(主管課) 文化庁国際課(課長: 秋葉正嗣) (関係課) 文化庁芸術文化課(課長: 鬼澤佳弘) / 伝統文化課(課長: 小松弥生) / 美術学芸課(課長: 山崎秀保) / 記念物課(課長: 岩本健吾) / 参事官建造物担当(参事官: 苅谷勇雅)	
④基本目標及び達成目標 ア= 想定した以上に達成 イ= 想定どおり達成 ウ= 一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった エ= 想定したとおりは達成できなかった ア= 想定した以上に順調に進捗 イ= 概ね順調に進捗 ウ= 進捗にやや遅れが見られる エ= 想定したどおりには進捗していない	<p>基本目標 8-4 (基準年度: 13年度 達成年度: 17年度) 我が国の文化芸術活動の水準を向上させ、文化を通じた国際貢献を行うとともに諸外国との相互理解の増進を図るために、文化芸術振興、文化財保護における国際文化交流を推進する。</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】 以下の達成目標の進捗状況をア: 5点、イ: 4点、ウ: 2点 エ: 1点としたとき、その合計が、 ア= 15点以上。 イ= 12~4点 ウ= 8~11点 エ= 7点以下。</p> <p>達成目標 8-4-1 (基準年度: 13年度 達成年度: 17年度) 平成17年度までに、日本と関係の深い主要国(英・米・独・仏・中・韓)をはじめ、様々な国から計150名のハイレベルな海外の芸術家・文化財専門家を招へいし、国際文化交流のためのネットワークの構築を図る。</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】 ア= 主要国すべてから招へいした上、主要国以外8カ国以上から招へい。さらに、招へい人数が30人以上 イ= 主要国すべてから招へいした上、主要国以外4カ国以上から招へい。さらに、招へい人数が20人以上。 ウ= 主要国のうち招へいできなかった国が1カ国でもあった。招へい人数は15人以上。 エ= 主要国のうち招へいできなかった国が2カ国以上あった。あるいは、招へい人数が15人未満。</p> <p>達成目標 8-4-2 (基準年度: 13年度 達成年度: 17年度) 平成17年度までに、我が国の芸術団体による海外公演の実施や海外の芸術団体と我が国の芸術団体による共同制作公演の実施により、文化芸術振興及び国際文化交流を推進する。</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】 ア= 公演数が前年度比5%以上増加 イ= 公演数が前年度比5%未満の増加 ウ= 公演数が前年度と変わらず、または5%未満の減少 エ= 公演数が前年度比5%以上減少</p> <p>達成目標 8-4-3 (基準年度: 13年度 達成年度: 17年度) 世界の文化遺産保護における国際協力について我が国の経験や技術を活用するために、文化財専門家の派遣や招へい研修の充実を図ることで、質の高い専門家を育成する。</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】 1 ア= 研修を受けた専門家の9割以上が満足した。 イ= 研修を受けた専門家の7割以上が満足した。 ウ= 研修を受けた専門家の5割以上が満足した。 エ= 研修を受けた専門家の3割以上が満足した。</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】 2 招へい実施機関が予め設定した招へい目的に対し、その達成度を5段階評価する。 ア= 招へい目的に対し、達成度評価4以上だった機関が9割以上だった。 イ= 招へい目的に対し、達成度評価4以上だった機関が7割以上だった。 ウ= 招へい目的に対し、達成度評価4以上だった機関が5割以上だった。 エ= 招へい目的に対し、達成度評価4以上だった機関が3割以上だった。</p>	<p>達成度合い又は進捗状況</p> <p>一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった</p> <p>一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった</p> <p>想定した以上に達成</p> <p>想定どおり達成</p>
⑤ 各達成目標の現況 達成度合い又	達成目標 8-4-1 【平成17年度の達成度合い】	

<p>状の分析と今後の課題</p>	<p>は進捗状況（達成年度が到来した達成目標については総括）</p> <p>平成 17 年度までに日本と関係の深い主要国（英・米・独・仏・中・韓）をはじめ、様々な国から計 150 名のハイレベルな海外の芸術家・文化財専門家を招へいし、国際文化交流のためのネットワークの構築を図ることを目標としていた。</p> <p>平成 17 年度は、量的な面においては、招へい人数はやや増加傾向、質的な面においては、世界各国で第一人者として活躍している芸術家・専門家を招へいし、芸術家・文化財専門家の質は確保されている。また、主要国 6 カ国のうち 1 カ国からの招へいができなかったが、その他 8 ケ国からの招へいを実施し、様々な国の芸術家・文化財専門家と、幅広い分野において国際文化交流におけるネットワークの構築を推進したと考えられるが、判断基準にわずかに到達せず、結果的に一部について想定どおり達成しなかった。</p> <p>【達成目標期間全体の総括】 この 5 年間に、予算削減などを受けて一時招へい数が若干減少したこともあったが、事業期間内により多くの人数を招へいできるよう計画的な招へいの実施努力等を行うなどの工夫から、毎年、概ね一定の招へい数を確保し、計 160 名の招へいを達成し、量的指標を達成できた。また、多くの芸術家・文化財専門家を招へいすることにより、関係分野での人のネットワークが広がるとともに、ネットワークを生かした文化財専門家等の研究者間の交流や国際文化交流活動も多く実施されたことから、想定どおり達成されたと考えられる。</p>
	<p>達成目標 8-4-2</p> <p>【平成 17 年度の達成度合い】 達成目標「平成 17 年度までに、我が国の芸術団体による海外公演の実施や海外の芸術団体と我が国の芸術団体による共同制作公演の実施により、文化芸術振興及び国際文化交流を推進する。」という平成 17 年度達成度合いについては、公演数が前年度に比べ大幅に増加しているほか、公演の内容については世界の多様な芸術との相互刺激を通じて豊かな芸術を生み出すことが期待されているものであることや、スタッフ、キャスト等の専門性が高いなどの観点から、公演の質は確保されており、想定した以上に順調に達成されたと判断。</p> <p>【達成目標期間全体の総括】 達成目標期間全体を通じた達成目標「平成 17 年度までに、我が国の芸術団体による海外公演の実施や海外の芸術団体と我が国の芸術団体による共同制作公演の実施により、文化芸術振興及び国際文化交流を推進する。」については、平成 14 年度に大幅な増加したため、翌 15 年度に落ち込みがみられたが、期間全体として想定どおり達成された。</p> <p>達成目標 8-4-3</p> <p>【平成 17 年度の達成度合い】 「アジア太平洋地域世界遺産等文化財保護協力推進事業」、については、研修を受けた専門家にアンケートを実施し、満足度を調査した。平成 17 年度実施の研修については、8 割の満足度を得た。 「アジア諸国文化財の保存修復等協力事業（博物館・美術館の研究協力）」、事業については、平成 17 年度実施の招へい事業について、招へい機関である各国立博物館、文化財研究所に対し、招へい目的の達成度をアンケート調査した。その結果、全ての招へい機関から、招へい目的を達成することができたという回答を得た。 その他、「アジア諸国文化財の保存修復等協力事業（文化財建造物の保存修復協力）」については、研修中及び終了後の直接の聞き取り調査により、招へい目的を達成することが出来たと判断した。</p> <p>【達成目標期間全体の総括】 これらのことから、事業の実施効果を検証する体制が概ね整ったと判断される。これらのアンケート結果を踏まえながら、来年度以降も引き続き文化財専門家の派遣や招へい研修の充実を図り、効果的な専門家の養成を行いたい。</p>
<p>施策目標（基本目標）の達成度合い又は進捗状況</p>	<p>【基本目標期間全体の総括】 施策目標 8-4 については、期間全体を通して上記のとおり、量・質両面において概ね順調に達成できた。このことにより、①国際平和と自由な世界の実現への貢献、②我が国と諸外国との間の人的ネットワーク構築、③国際社会における日本及び日本人の存在感を高めることを可能とし、基本目標達成につながったと言える。</p>
<p>今後の課題（達成目標等の追加・修正及びその理由を含む）</p>	<p>達成目標 8-4-1 今年度は前年度と比べ概ねおなじ指標での招へいを実施できた。外国人芸術家・文化財専門家を継続的に招へいをし、我が国関係者との意見交換、研究等の機会を提供し、国際文化交流のネットワークの範囲を広げていくことが、我が国の優れた国際文化交流事業への発展に資することから、引き続き事業の継続を図る必要がある。</p> <p>施策目標 8-4-2 指標が順調に推移していることから、「国際芸術交流支援事業」をはじめとする関連施策の効果が現れているものと推測されるが、引き続き支援の継続の必要がある。</p> <p>達成目標 8-4-3 今後も文化財専門家の派遣や招へい研修を行い、技術者間の情報交換、研究等の機会を提供するために、引き続き事業の継続を図る必要がある。</p>
<p>評価結果の 18 年度以降の政策への反映方針</p>	<p>達成目標 8-4-1 平成 17 年度で達成年度が到来するが、これまでの施策の効果を維持しつつ、今後も我が国と諸外国の芸術家・文化人との連携強化、日本文化の発信の更なる推進を図るため、引き続き「外国人芸術家・文化財専門家招へい事業」を実施する。</p> <p>達成目標 8-4-2</p>

平成18年度においても、引き続き「国際芸術交流支援事業」を講じることにより、文化芸術振興及び国際文化交流を推進する。

達成目標 8-4-3

これまでの施策の効果を維持しつつ、今後も文化を通じた国際貢献を図るため、「アジア太平洋地域世界遺産等文化財保護協力推進事業」、「アジア諸国文化財の保存修復等協力事業（博物館・美術館の研究協力）」、「アジア諸国文化財の保存修復等協力事業（文化財建造物の保存修復協力）」を実施する。

⑥指標	指標名	13	14	15	16	17
	ハイレベルの芸術家・文化財専門家の招へい人数 (達成目標 8-4-1 関係) (文化庁事業のアウトプット)	31	31	29	34	35
	我が国の芸術団体による海外公演数及び海外の芸術団体と我が国の芸術団体との共同制作公演数 (達成目標 8-4-2 関係)	309	345	335	337	360
	文化財修復等に関するアンケート満足度 (アジア太平洋地域世界遺産等文化財保護協力推進事業) (達成目標 8-4-3 関係)		9割以上が満足	9割以上が満足	9割以上が満足	8割以上が満足
	文化財修復等に関する進捗状況調査 (アジア諸国文化財の保存修復等協力事業 (博物館・美術館の研究協力)) (達成目標 8-4-3 関係) (達成度 5段階のうち 4以上の割合)					9割以上
	文化財修復等に関するアンケート満足度 (アジア諸国文化財の保存修復等協力事業 (文化財建造物の保存修復協力)) (達成目標 8-4-3 関係)					9割以上が満足
参考指標	外国人旅行者受入数国際ランキング (括弧内: 万人) (達成目標 8-4-1 関係)	35位 (477)	33位 (524)	32位 (521)	29位 (614)	32位 (521)

⑦評価に用いたデータ・資料・外部評価等の状況
 8-4-1については、招へい人数と主要6カ国からの招へいと日本との関係の深い約30カ国からの招へい実績による。なお、8-4-1の参考指標は、世界観光機関(WTO)の調査によるもので、日本文化の魅力が対外的に浸透している指標の側面から掲載。
 8-4-2の指標は『舞台芸術交流年鑑』(国際舞台芸術交流センター発行)による。
 8-4-3については、研修を受けた専門家及び国内の招へい実施機関へのアンケート結果による。

⑧主な政策手段 (過去に新規・拡充事業評価を実施し、平成18年度に達成年度が到来する事業については総括)	政策手段の名称 (上位達成目標 [17年度予算額])	政策手段の概要	17年度の実績 (得られた効果、効率性、有効性等)
	外国人芸術家・文化財専門家招へい事業 (達成目標 8-4-1) [14百万円]	外国の文化行政担当省庁の高官、博物館・美術館、文化財研究所、芸術劇場の責任者などハイレベルの文化人を招へいして、我が国関係者との協議、講演等を実施。	[得られた効果] 我が国と諸外国の芸術家・文化人との連携強化と日本文化の発信の推進が図られた。 [事務事業等による活動量] 文化庁による招へい者数・国数: 35名・13カ国
	国際芸術交流支援事業 (達成目標 8-4-2) [1,864百万円]	我が国と外国との二国間における芸術交流の推進と海外とのオペラ等の共同制作を支援する。	[得られた効果] 我が国の芸術団体が行う海外公演や共同制作公演を支援することにより、文化芸術振興及び国際文化交流の推進が図られた。 文化庁による支援公演数 [事務事業等による活動量] 海外公演: 98件 共同制作: 9件
	アジア太平洋地域世界遺産等文化財保護協力推進事業 (博物館・美術館の研究協力) (達成目標 8-4-3) [65百万円]	アジア太平洋地域の文化財保護に関する国際協力の充実を図るため、文化財保護計画の策定等の研修を行う。	[得られた効果] 専門家を招へいし、文化財保護に関する研修を実施することにより、各国の専門家の資質向上と、ひいては国際貢献に効果をあげた。 [事務事業等による活動量] 17年度のアンケート調査によると、研修を受けた専門家の8割以上が満足していた。

<p>アジア諸国文化財の保存修復等協力事業（博物館・美術館の研究協力） （達成目標 8-4-3） [4百万円]</p>	<p>アジア諸国の博物館・美術館及び文化財に関する研究機関等へ研究者・技術者、学芸員等を派遣し、文化財の管理・展示公開に関する共同研究を行い、また、諸国の修理技術者を我が国に招へいし、文化財の展示取扱、修理技術、保存・管理に関する調査、研究、交流を行う。</p>	<p>[得られた効果] 専門家を招へいし、文化財保護に関する研修を実施することにより、各国の専門家の資質向上と、ひいては国際貢献に効果をあげた。</p> <p>[事務事業等による活動量] 17年度からアンケート調査を実施し、全ての招へい機関から、招へい目的を達成することができたという回答を得た。</p>
<p>アジア諸国文化財の保存修復等協力事業（文化財建造物の保存修復協力） （達成目標 8-4-3） [7百万円]</p>	<p>相手国の要請に基づき、我が国の文化財保存技術の専門家として文化財調査官等を派遣し、歴史的建造物の共同調査や保存・修復について技術協力等を行い、また、相手国から文化財行政関係者や技術者を招へいし、研修を行う。</p>	<p>[得られた効果] 専門家を招へいし、文化財保護に関する研修を実施することにより、各国の専門家の資質向上と、ひいては国際貢献に効果をあげた。</p> <p>[事務事業等による活動量] 研修中及び終了後の直接の聞き取り調査により、招へい目的を達成することが出来たと判断した。</p>
<p>⑨備考</p>		
<p>⑩政策評価担当部局の所見</p>	<p>※文部科学省の事業が我が国の国際文化交流の進展に全体としてどのような効果を及ぼしているのか（波及効果）を把握するための指標を設定することを検討すべき。</p>	

施策目標 8-4 (国際文化交流の推進による芸術文化水準の向上, 文化を通じた国際貢献, 諸外国との相互理解の増進) -平成17年度実績評価の結果の概要-

外国人芸術家・文化財専門家招へい事業(平成17年度予算額:14百万円)

達成目標8-4-1

平成17年度までに、日本と関係の深い主要国(英・米・独・仏・中・韓)をはじめ、様々な国から計150名のハイレベルな海外の芸術家・文化財専門家を招へいし、国際文化交流のためのネットワークの構築を図る。

→平成17年度は、世界各国で第一人者として活躍している芸術家・専門家を前年度に比べ1人多く招へいするとともに計13か国からの招へいを実施し、ネットワークの構築は進んだが、主要国のうち1か国の招へいができず、一定の成果は上がっているが、一部について想定どおり達成できなかった。

外国人芸術家・文化財専門家等との国際ネットワークの構築について、平成17年度は一部想定どおり達成できなかったが、これまでの5年間で量的には想定以上の招へいを達成し、より多くの交流が進み、質の高いネットワークを構築できた。

国際芸術交流支援事業(平成17年度予算額:1,864百万円)

達成目標8-4-2

平成17年度までに、我が国の芸術団体による海外公演の実施や海外の芸術団体と我が国の芸術団体による共同制作公演の実施により、文化芸術振興及び国際文化交流を推進する。

→平成17年度は、公演数が前年度に比べ大幅に増加し、また、公演内容が充実し、スタッフ・キャスト等の専門性も高い、質の高い海外公演を実施していることから、想定した以上に達成。

我が国の芸術団体による海外公演や海外の芸術団体との共同制作公演については、昨年度より公演件数が増加するとともに、質の高い公演が実施できた。

アジア太平洋地域世界遺産等文化財保護協力推進事業(平成17年度予算額:65百万円)

アジア諸国文化財の保存修復等協力事業(博物館・美術館の研究協力)(平成17年度予算額:4百万円)

アジア諸国文化財の保存修復等協力事業(文化財建造物の保存修復協力)(平成17年度予算額:7百万円)

達成目標8-4-3

世界の文化遺産保護における国際協力について我が国の経験や技術を活用するために、文化財専門家の派遣や招へい研修の充実を図ることで、質の高い専門家を育成する。

→平成17年度は、研修を受けた専門家及び招へい実施機関へのアンケート調査の結果、ともに満足している旨の回答が得られたので、順調に想定どおり達成。

文化財専門家の招へい研修等について、我が国の経験や技術を活用し、質の高い研修を行うことができた。

基本目標 我が国の文化芸術活動の水準を向上し、文化を通じた国際貢献を行うとともに諸外国との相互理解の増進を図るために、文化芸術振興、文化財保護における国際文化交流を推進する。

↓一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった